

平成22年4月21日
事務連絡

全国専修学校各種学校総連合会 殿

文部科学省 生涯学習政策局政策課

Web サイト「熟議カケアイ」における、教員の資質向上等に係る熟議参加について

文部科学省では、4月17日にインターネット上で熟議を行うための Web サイト「熟議カケアイ」(<http://jukugi.mext.go.jp>) を開設しました。

この「熟議カケアイ」は、教育に関わるあらゆる当事者（教職員、保護者、学校・地域ボランティア、教育政策関係者等）が会員登録することで参加できる Web サイトで、様々な教育政策課題について、参加者の方々より御意見を投稿していただくとともに、参加者間で意見交換、熟議を行うものです。寄せられた御意見は、政務三役にて参酌し、政策形成につなげていくこととしております。

まずは、教員の資質向上や未来の学校について、4月17日より5月中までを目途に熟議を実施いたします。貴団体におかれましても、別添資料もご参照の上、趣旨に御賛同いただき、構成員の方々に参加を呼び掛けていただけましたら幸いです。よろしくお願いいたします。

記

□ 「熟議カケアイ」のアクセス方法

パソコンからアクセスできます。(携帯電話ではアクセスが出来ません)

・ URL : <http://jukugi.mext.go.jp/> ・ 検索エンジン : 「熟議カケアイ」で検索

□ 「熟議カケアイ」のイメージ

①政務三役より、Web サイトの掲示板に政策課題についての質問を投げかけます。

②質問に対して、参加者の方々が各々の御意見を投稿します。

③投稿された意見を踏まえ、Web サイトの掲示板上で、参加者間で議論、すなわち「熟議」が行われます。

④政務三役は、寄せられた「熟議」に基づいた御意見を参酌して、政策形成につなげていきます。

(別添資料)

4月17日報道発表資料 (Web サイト「熟議カケアイ」を新設、教員の資質向上策の政策検討スタート ～中央教育審議会との両輪で教育政策形成を行う新機軸～)

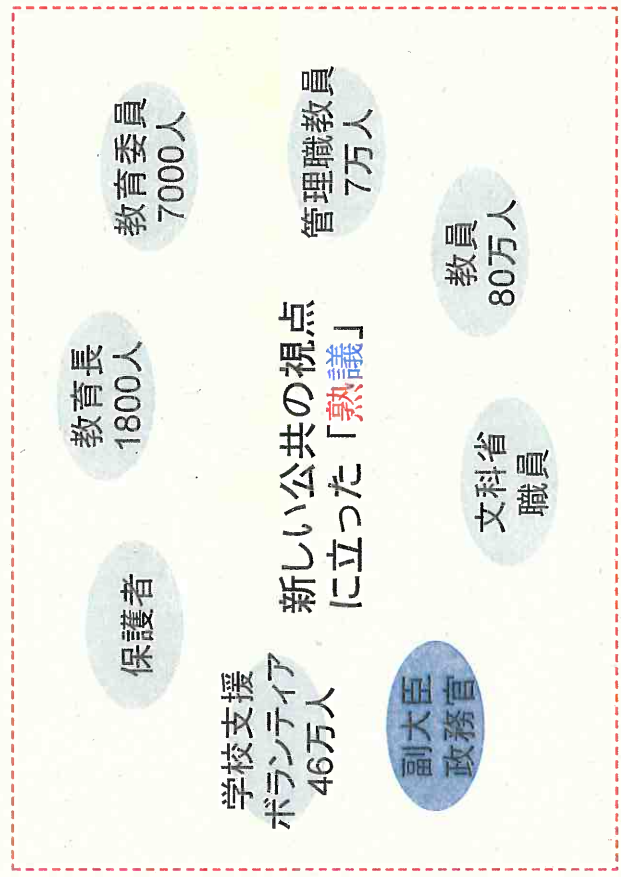
照会先：文部科学省生涯学習政策局政策課 久芳、池田

電話：03-5253-4111 (内線2641、3279)

「熟議」に基づく教育政策形成の取組① - 文科省熟議による教育政策形成構想 -

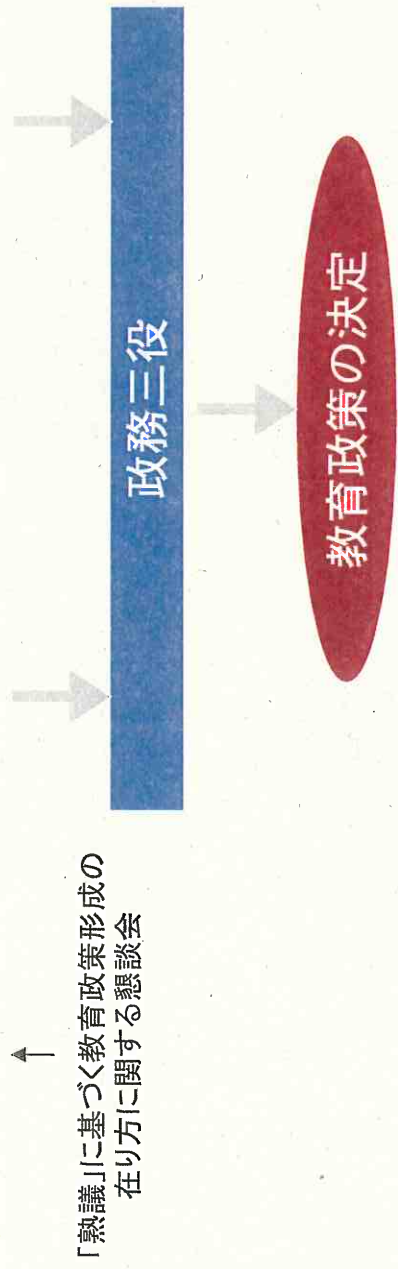
中央教育審議会等における専門家による検討に合わせ、車の両輪として、当事者による「熟議（じゅくぎ）」に基づいた意見を踏まえ、政務三役にて政策決定を行う。

当事者による「熟議」



両輪

中央教育審議会等



「熟議」に基づく教育政策形成の取組② - 当事者による「熟議」のイメージ -

当事者による「熟議」に基づいた意見を収集するため、
「現場対話」と「Webサイト」(熟議カケアイ)をハイブリッド展開する

現場対話での熟議



ハイブリッド展開

Webサイト上での熟議



平成22年4月17日開催の

「熟議」に基づく教育政策形成シンポジウム」

からスタート

平成22年4月17日オープン

Webサイト「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」

にて「教員の資質向上」をテーマにスタート

【コンセプト】

- ① 実際に対面で行う「現場対話での熟議」と、時間・場所の制約が少ない「Web上での熟議」をハイブリッド展開
- ② それぞれの熟議には、「教育現場の当事者」と「政務三役」が参加
- ③ 文部科学省職員は、熟議を促進する情報提供(事例やデータ)・ファシリテーター役として参加
- ④ 熟議のプロセスはネット等で公開(特に、「Webサイト上での熟議」はリアルタイムで公開)

(参考①) 「熟議」とは

「熟議」：多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。
政策を形成する際、

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個人が納得して自分の役割を果たすようになる、

というプロセスのことを言う。

◆事例:

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会と県立病院が対立。救急車の市外搬送が多数発生。しかし、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことになって、問題解決のための画期的なシステムを考案、みんなで行った。今では、高度な治療まで地域内で行えるようになった。また、3年前より小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながった。

◎熟議の効果1: 行政改革

- ・教育についての情報と議論が市民に広く開放される。
- ・行政が教育政策についての情報提供と熟議のファシリテーションをおこなうことで、市民と共に教育政策を考えることができ、現場と行政の間にある問題認識のギャップを縮小することにつながる。
- ・社会課題ベースの議論ができるので、「縦割り、横割り」行政を乗り越えた政策形成につながる。それによって、教育現場における社会課題について、迅速で効率的な対応が可能となる。

◎熟議の効果2: 新しい教育文化の創造

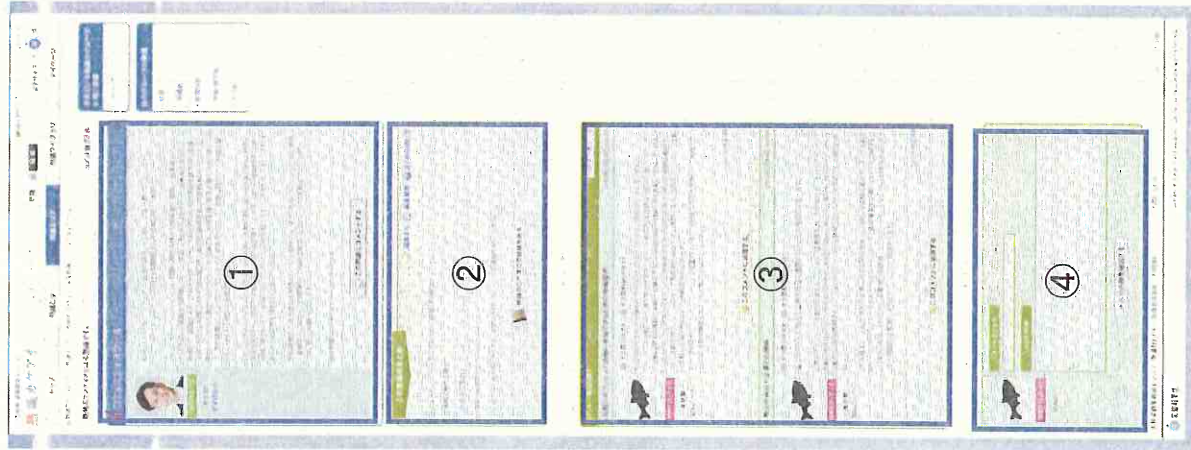
- ・正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ合い、課題を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- ・これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- ・それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認するようになる。また、地域のつながりが形成される。

(参考②) Webサイト「熟議カケアイ」画面イメージ

トップページ



熟議ページ



「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」

<http://jukugi.mext.go.jp/>

- ・4月17日よりサイトオープン。
- ・スタート時の熟議テーマは「教員の資質向上」（1ヶ月程度の期間で熟議を実施）。
- ・登録すれば参加可能。
- ・当初は、属性（保護者・学校ボランテニア、教員・教育行政等）ごとに掲示板を用意して熟議を行い、熟議の状況に応じて、属性を取り払って熟議を実施。

熟議ページの概要

- ①熟議テーマ欄
 - ・政務三役より、熟議のテーマや質問等を掲載
- ②熟議のまとめ欄
 - ・投稿されたコメントを要約して掲載。
 - ・この「熟議のまとめ欄」を見れば議論経過を把握可能となる。
- ③コメント表示欄
 - ・参加者が投稿したコメントが表示される。
 - ・個々のコメントに対して「そう思う」「そう思わない」の投票が可能。
- ④コメント投稿欄
 - ・投稿するコメントを書き込む欄。